



五小だより



五小ブログ

五小ボランティア

11月号

令和5年10月31日
国分寺市立第五小学校
校長 橋本 弥記

学校教育目標 ○元気な子 ○やりとげる子 ◎考える子 ○思いやりのある子

どこかで誰かが支えている

校長 橋本 弥記

暑すぎた夏の間、出て来られなかった蚊が現れ、10月になってから虫除け対策グッズが売れるようになったと報道されていました。蚊だけでなく、本校では蜂も見つかり、用務主事さんに対策を依頼しました。

「用務主事」さんは、学校の何でも屋さんとも言える存在です。蜂が見つかったと言えば声をかけ、ビワの木の枝が伸びすぎてプールサイドに実が落ちてしょうがないと言えば声をかけ、LED ライトになっていないトイレの電球が切れたと言えば捜し歩き、グリーンボランティアの活動補佐も、落ち葉掃きも、壊れたものの修理も依頼します。半端ではない仕事の範囲の広さで、用務主事さんは実に頼もしい存在です。しかし、頼もしいのは、用務主事さんだけでなく、学校は様々な仕事をする方々に支えられています。

事務室には、「お金」や「人」に関わり、窓口になる事務の担当者と栄養士がいます。教育活動や給食に必要な物品の購入や管理、業者への修繕依頼だけでなく、来客や電話の対応もしています。

歴史の浅い存在として、「SSS (スクール・サポート・スタッフ)」や「副校長補佐」「特別支援教室専門員」がいます。SSS は先生たちの仕事を、副校長補佐は副校長の仕事を、専門員はせんだん教室の仕事を手伝います。導入された傍から学校になくってはならない存在になっています。給食室には給食を調理する方々がいて、職員室には先生たちがいて、とわかりやすい役割を担う存在ばかりではなくなっているのが、昨今の学校です。SC (スクール・カウンセラー) や学校司書、ALT (アシスタント・ランゲージ・ティーチャー)、SSW (スクール・ソーシャル・ワーカー) は、特にその専門性の高さで学校を支えてくださっています。

そして、学校を支えてくださっている人は、学校の中にばかりいるわけではありません。本校の CS (コミュニティ・スクール) 協議会委員の方々は、校長が作成する学校運営や重点目標・年間計画等の基本方針の説明を受け承認したり、学校運営に関する意見を述べたりしてくださっています。国分寺市の CS は、

○地域の特色を生かした創意工夫のある学校をつくる

○地域に学校を開き、より信頼される学校をつくる

この2点を目指しています。本校では、この2点に加えて「持続可能な教育活動」を計画・実施していくことも目指しています。どんなに頼もしく心強い存在の教職員も、いつかは異動・退職していきます。教職員のメンバーが入れ替わっても望ましい教育活動を継続して実施するには、地域コーディネーターや保護者の力が必要なのです。無理のない形で長いお付き合いをしてくださるのであれば、何でも屋さんとしての関わりも、「これなら」という部門での関わりも、喜んでお願いしたいところです。

それぞれに五小を支えてくださっている皆様、これから支えてくださる皆様、どうぞ末長くよろしくお願いたします。